

ブナ保護林（植物群落保護林）の拡充検討について（案）

1 はじめに

生物多様性検討委員会の取りまとめにおいて、植物群落保護林にあっては、「希少種の存続が懸念されている植物群落保護林が、群落として保全できる適当な面積的な広がり」となっているか区域等の見直しを含めて検討することが必要との検討方向が示されるとともに、「北海道国有林の生物多様性保全に関する調査方針」により各種調査を実施することとなった。

また、「特に希少性の高いものについては、遺伝子レベルの調査を検討」との方向性が示され、渡島半島国有林内のブナ保護林等について、平成19年度に遺伝子レベルの調査を行った。これらの調査結果を踏まえ、奥尻保護林とチリチリ川保護林について、拡充する方向で検討している。

2 拡充を検討する植物群落保護林

チリチリ川保護林（所在：上磯郡知内町、面積 30.24 ha）

他の保護林に比べ、近交係数が高く、サンプル木の近縁性が示唆される。

奥尻保護林（所在：奥尻郡奥尻町、面積 258.68 ha）

他の保護林に比べ、この保護林のみに出現した対立遺伝子の数が多く、遺伝的に特異的なブナ林である可能性が高い。

3 拡充に当たっての考え方

- ・ 保護目的が達成できる面積の広がりを周辺林分の現況等を勘案して可能な限り確保する。
- ・ 拡充区域内及びその周辺における人工林を段階的にブナ林に誘導する施業の可能性を検討する。
- ・ 地元住民生活等に配慮した機能類型の見直しを検討する。

4 検討スケジュール

本年8月に現地確認を行った結果、保護林周辺にブナを含み樹種構成等が保護林と類似した森林が確認されたところ。

平成21年において周辺森林について、植生等の詳細な調査を行うとともに、関係機関等の意見を聴いて、21年度樹立の森林計画に反映する予定である。